

ABEST21 eNEWS March 2009, No.8

ABEST21 認証評価ニュース-8

=====

1月31日(土)青学会館で国内外の委員が出席して専門審査委員会が開催された。2007年度受審校の提出した「自己点検評価報告 (Self-Evaluation Report: SER)」についての専門審査小委員会 (Peer Review Team: PRT) の審査報告に対する審議が行われました。日本語と英語の審査報告書、PRT 主査による英文のパワーポイントのスライドによる審査報告で、ロシア、中国、マレーシア、シンガポール、インドネシアそしてメキシコから出席した海外委員から積極的な質問を受け、充実した国際委員会が開催できました。専門審査委員会に出席する海外委員に対しては、前日の30日に認証評価セミナーを行い、わが国の専門職大学院制度、専門職大学院設置基準、ABEST21の認証評価システムと認証評価プロセス、そして審査報告書の内容等について詳細な説明をしましたので、専門審査委員会では主査の審査報告の本質的な問題について質疑応答が活発に行われました。アジアの国々でわが国の専門職大学院制度と認証評価についての理解度が高まり、2009年度の認証評価の受付にマレーシアから受審の意思表示がなされました。専門審査委員会で審議された審査報告書は受審校に第一次内示として示され、意見申立の機会が設定されました。

ABEST21 ニュース

=====

ABEST21は、3月24日にABEST21総会と理事会の開催が予定されています。そこではインドネシア大学 (University of Indonesia) およびバンドン工科大学 (Bandung Institute of Technology) のABEST21加盟申請、この2年間を通じてのABEST21認証評価システムの改善、そしてABEST21認証評価基準の改正等を審議する予定です。また、24日には我々が文部科学省の委託事業として行ってきた評価システムの問題についての最終研究報告を国際シンポジウムの形式で行い、研究成果をCDにプリントし、当日の出席者に配布する予定をしています。

翌25日には品川のソニー本社で最終の認証評価委員会を開催し、委員会に引続き受審校に認証評価証書(英文)を手渡す授与式とヨーロッパのEFMD (European Foundation for Management Development) のJim Herbolich氏の講演をも予定しています。

また、ABEST21経営委員会は、企業ニーズの調査研究の結果を踏まえ、企業の教育に対する期待値と教育成果の観測値の一致を目指して、会員校および調査協力企業の社員を対象にABEST21セミナーを実施することにしました。テーマは「新事業とイノベーション」で、期間は8月1日(土)、8月8日(土)、8月15日(土)そして8月22日(土)の各土曜日のI (10:00-11:40)、II (13:00-14:40)、そしてIII (15:00-16:40)の計12セッションの授業、講師は青山ビジネススクールの前田昇教授で、ソニーでの約20年間の高度実務経験に基づいて、理論と実践を架橋した現実的な問題解決型の教育を実践していきます。講習料は50,000円で募集人数は約30名です。詳細についてはABEST21ホームページをご参照ください。

ABEST21 Research Projec-2(企業ニーズ)-マレーシア

=====

ABEST21 Research Projec-2(企業ニーズ)の今回の報告は、マレーシアの調査結果の概要です。マレーシアでの調査はマネジメント科学大学が担当されました。調査票は、168社に送られ、その結果96社の回答を得られ、其の内有効回答数90社、有効回答率は53.6%でありました。回答企業の業種は、製造業が26%、エネルギー産業(電気/ガス/水道)22%、行政、防衛;社会保障16%、その他が36%でありました。回答企業の22%は国内企業で、海外に支店・工場を持つ多国籍企業は78%でありました。回答企業の内、2007年にMBA取得者を採用した企業は100%、採用しなかった企業は0、無回答は0でありました。

MBAプログラムは現代の企業・社会のニーズに一般的に答えていると回答した企業は、98%、答えていないとした企業は2%で、その一般的な評価は他国と比べて最も高いものでした。MBA取得の従業員に対しては、スキル(38.9%)、判断力と計画立案力(28.9%)、新しい発想(17.8%)、チームワークとハードワーク(14.4%)の点で評価されていました。その一方、過大な給料と昇進の期待(36.7%)、理論的・理想主義的および非現実的言動(20%)、MBAの知識の自国ビジネスに対する非有用性(15.6%)、MBAプログラムの質の劣等性(15.6%)が問題点としてあがっていました。

MBA取得者に対して回答企業の過半数が期待した力量は、「組織化能力」、「数量的分析能力」、「チームビルド能力」、「戦略的思考能力」、「分析思考能力」、「創造性」、「実現能力」、「独創性とリスクテイク能力」、「行動志向能力」「意志決定能力」が上位10位に上がっており43~57%の間で推移しておりました。それに対する観測値は期待値と同等もしくは上回るものもあり、43%~57%の範囲で推移しており、これは、他国にはない特徴であり、期待以上のものがMBAのスキルとして評価された事になります。特に、期待値20%の「リーダーシップ能力」「対人能力」の観測値は80%と非常に高いものでありました。

また、ビジネススクールでのマネジメント教育に対する企業ニーズとして、MBAプログラムはもっとケース・ティーチングを行い実務的スキル志向であるべき(57.8%)、国内ビジネス向けであるべき。質を高めるべき。費用がかからないようにするべき(23.3%)。もっと戦略性、計画性をカリキュラムに盛り込むべき(18.9%)であることが求められておりました。また、MBA取得者は、新たな経験、技能や知識を得ることによって(40%)、新しい構想、発想、経営管理技術によって(20%)、国際的な視野によって(7.8%)、企業発展に貢献できる個人の資質を通じて(18.9%)、人脈を通じて(13.3%)、企業の発展に貢献していくとみられておりました。しかしながら、欧米のビジネススクールとの比較では、自国のビジネススクールの評価は低いので、欧米のビジネススクールの方が望ましい(95.6%)と評価されておりました。長所としては、ビジネス環境や自国文化に接しているために国内企業の状況をよく認識している(47.8%)、費用がかからない、英語を話す必要がない。海外へ行くために現在の仕事を休んだり辞めたりする必要がない。学位取得が簡単である。短所としては、プログラムが学究的で実務的でない。(35.6%)教授がプロフェッショナルではない。(25.6%)ビジネス教育の歴史が浅い。質が劣っている。最先端のプログラム教授法となっていない等の指摘がありました。 総体的に他国と比較しても、マレーシアにおけるMBAプログラムの企業からの評価は高いものであり、今後の期待も大きいものと考えられます。

以上